

令和5年度事業報告書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

学校法人多摩美術大学
東京都世田谷区上野毛3-15-34

目 次

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神 2 頁
2. 沿革 2 頁
3. 設置学校等 4 頁
4. 目的・教育目標 4 頁
5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率 6 頁
6. 学部学科・専攻別進路状況 7 頁
7. 役員に関する情報 8 頁
8. 教職員に関する情報 8 頁
9. 学習環境に関する情報 9 頁

II. 事業の概要

1. 中長期計画：2020年4月1日～2025年3月31日10 頁
2. 各事務部署の取組み11 頁

III. 2023（令和5）年度 予算執行状況及び財務状況

1. 資金収支計算28 頁
2. 事業活動収支計算29 頁
3. 貸借対照表30 頁
4. 財務比率31 頁
5. 財産目録32 頁

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神

本学の淵源は、1929（昭和 4）年設立の帝国美術学校にある。1935（昭和 10）年、帝国美術学校校長北吟吉は、帝国美術学校を専門学校に昇格させるため手狭な吉祥寺から広大な東京府（現在の東京都）東京市世田谷区上野毛に校地移転を計画。移転昇格派と残留派で分裂のやむなきに至るが、北吟吉、杉浦非水、井上忻治、牧野虎雄をはじめとする大半の教員と、図案科を中心とする学生らが移転。官立の美術学校にはない「自由なる精神」が生み出す美術の根源を求めて、校名新たに多摩帝国美術学校が生まれる。

以来「自由と意力」の理念の下、常に芸術の先端的な動向を切り拓き我が国の芸術文化の進展に寄与してきたのである。専門分野における高度な学理や技能のみならず、国際的な視野と幅広い教養をも身につけた人材の育成に努め、社会に新たな息吹をもたらす優れた芸術家・デザイナー並びに教育者・研究者を数多く輩出してきたことは、本学の誇りとするところである。

2. 沿革

- | | |
|--------------|--|
| 1935(昭和 10)年 | 多摩帝国美術学校を 5 年制の美術学校(日本画科、西洋画科、図案科、彫刻科)として現在の東京都世田谷区上野毛の地に創設 |
| 1937(昭和 12)年 | 財団法人設立。女子部が創立され、女子の入学が許可 |
| 1947(昭和 22)年 | 専門学校令により、多摩造形芸術専門学校となり、中等教員無試験検定の指定校となる。 |
| 1950(昭和 25)年 | 旧制の多摩造形芸術専門学校に 3 年制の短期大学、多摩美術短期大学(絵画科、彫刻科、造形図案科)を併設 |
| 1951(昭和 26)年 | 学校法人に組織変更 |
| 1953(昭和 28)年 | 学制改革にともない、4 年制の新制大学多摩美術大学を開学(美術学部・絵画科、彫刻科、図案科) |
| 1954(昭和 29)年 | 川崎市溝の口校地に多摩芸術学園(2 年制 映画科、演技科)を設置 |
| 1955(昭和 30)年 | 多摩美術短期大学を廃止 |
| 1964(昭和 39)年 | 大学院美術研究科修士課程を設置 |
| 1969(昭和 44)年 | 芸術学科、建築科の 2 科増設の認可 |
| 1971(昭和 46)年 | 年次計画により八王子移転を開始。建築科開講 |
| 1974(昭和 49)年 | 美術学部の八王子移転完了 |
| 1981(昭和 56)年 | 芸術学科を開講し、美術学部は 5 科となる。 |
| 1982(昭和 57)年 | 多摩美術大学附属美術参考資料館が、博物館相当施設の指定を受け一般に公開 |
| 1989(平成元)年 | 美術学部二部(絵画学科、デザイン学科、芸術学科)開設 |
| 1992(平成 4)年 | 多摩芸術学園廃止。美術学部臨時定員増 |
| 1995(平成 7)年 | 大学院美術研究科昼夜開講制開始 |
| 1998(平成 10)年 | 美術学部に情報デザイン学科開設、建築科・デザイン科の改組及びデザイン科・芸術学科の定員減により環境デザイン学科、生産デザイン学科、工芸学科を開設。建築科募集停止。美術学部絵画科、彫刻科、デザイン科を絵画学 |

	科、彫刻学科、グラフィックデザイン学科に名称を変更。大学院美術研究科芸術学専攻開設
1999(平成 11)年	美術学部二部を改組し、造形表現学部（造形学科、デザイン学科、映像演劇学科）開設。
2000(平成 12)年	附属美術館を多摩センターへ移転
2001(平成 13)年	大学院博士後期課程開設。附属メディアセンター開設
2002(平成 14)年	大学院美術研究科工芸専攻開設
2005(平成 17)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、環境デザイン学科、芸術学科定員増
2006(平成 18)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、生産デザイン学科、環境デザイン学科、大学院美術研究科デザイン専攻定員増。附置芸術人類学研究所を設置
2007(平成 19)年	大学院美術研究科デザイン専攻定員増
2008(平成 20)年	美術学部生産デザイン学科定員増
2012(平成 24)年	大学院美術研究科芸術学専攻身体表現研究領域開設
2014(平成 26)年	造形表現学部募集停止 美術学部統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科を開設
2016(平成 28)年	大学院美術研究科絵画専攻日本画夜間主コース、油画夜間主コース、デザイン専攻コミュニケーションデザイン研究領域、芸術学専攻身体表現研究領域募集停止
2018(平成 30)年	大学院美術研究科デザイン専攻統合デザイン研究領域、演劇舞踊専攻を開設

3. 設置学校等

(学) 多摩美術大学 理事長 青柳 正規

多摩美術大学 学 長 内藤 廣

【所在地】

上野毛キャンパス：東京都世田谷区上野毛 3-15-34

八王子キャンパス：東京都八王子市鏈水 2-1723

学部・研究科	学科等	専 攻
大学院 美術研究科	博士後期課程	美術
	博士前期課程	絵画、彫刻、工芸、デザイン、芸術学、演劇舞踊
大学 美術学部	絵画	日本画
		油画
		版画
	彫刻	
	工芸	
	グラフィックデザイン	
	生産デザイン	プロダクトデザイン
		テキスタイルデザイン
	環境デザイン	
	情報デザイン	
	芸術	
	統合デザイン	
演劇舞踊デザイン		

4. 目的・教育目標

[大学の目的・教育目標]

大学の目的として、学則の第一章（総則）の第一条に、「広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、あわせて国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育者研究者等を養成する」としている。

また、大学院学則の第三条に、「芸術の技術と理論において新たな価値を創出し、社会を刷新することのできる人材を養成する」としている。

教育目標として、専門職業人、独立した作家を育成する上で必要となる、「高い専門性と総合性の融合」を掲げている。

[大学院美術研究科博士後期課程（博士）の目的・教育目標]

社会の急速な変化や学術研究の著しい進展に伴い、幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材を育成することを目的としている。よって領域に応じた専攻を有する修士課程とは異なり、美術専攻 1 専攻のみを設置し、領域に捕われない美術創作研究と美術理論研究の確立を目標としている。

[大学院美術研究科博士前期課程（修士）の目的・教育目標]

美術・デザイン領域における高度な知識と技能を備えた人材を育成するため、1964年に芸術系私立大学ではわが国初めての認可を受けた。絵画、彫刻、デザインの専攻を設置し、1998年に芸術学専攻、2002年には工芸専攻を開設して、1研究科5専攻の編成としている。

クラス制の色合いを濃くし、担当教員によるマンツーマンの指導体制を基本とし、領域の専門性を深めることを目標としている。国際的な視野を具えた人材育成のため、多くの外国人留学生を受け入れ、国際化を図っている。

[美術学部の目的・教育目標]

国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育研究者等の育成を目的として、教育研究の内容の充実と高度化を図っている。

美術大学の性格上、来るべき社会の現実に対応する専門的な技能の修得と訓練に重きを置いている。しかし芸術の創作は、人間を忘れ学理を離れた、単なる職能人にとどまることによって達成されないものである。教育理念として懇切な実技指導に加えて、次の2つの特徴が挙げられる。

第一に、学理の尊重は創立以来の本学の伝統である。専門教育ならびに教養・総合教育の両者ともに、広い基礎的教養を育成し、学理を中心とした専門教育の推進に努めている。

第二に、人間の主体性の確立と創造性の開発は、美術教育に不可欠の条件として特に重視している。教養・学理・実技にわたる教育は、同時に豊かな心情と自由な創意と批判的な精神に貫かれた、芸術的個性の形成を目指している。

以上の教育目標実現のため、少人数教育を採っている。カリキュラムは少数の学生を単位に編成され、特にゼミナールを強化して、人間的接触による指導の徹底を期している。

また、課題解決型の授業により、自ら思考し、具体化する技能を身に付けることを何よりも重視している。

5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率

【大学院】

2023（令和5）年5月1日現在

キャンパス	研究科	専攻	研究領域	入学定員	収容定員	現員	収容定員超過率
八王子 及び 上野毛	美術研究科 博士前期課程	絵画	日本画	43	86	96	1.12
			油画				
			版画				
		彫刻		10	20	24	1.20
		工芸		9	18	22	1.22
		デザイン	グラフィックデザイン プロダクトデザイン テキスタイルデザイン 環境デザイン 情報デザイン 統合デザイン	62	124	163	1.31
			芸術学	芸術学	5	10	8
	演劇舞踊	演劇舞踊 劇場美術デザイン	8	16	11	0.69	
小計		137	274	324	1.18		
博士後期課程	美術	5	15	16	1.07		
合計			142	289	340	1.18	

【学部】

キャンパス	学部	学科	専攻・コース	入学定員	収容定員	現員	収容定員超過率
八王子	美術	絵画	日本画	195	780	852	1.09
			油画				
			版画				
		彫刻		30	120	137	1.14
		工芸		60	240	242	1.01
		グラフィックデザイン		184	736	776	1.05
		生産デザイン	プロダクトデザイン テキスタイルデザイン	104	416	448	1.08
		環境デザイン		80	320	348	1.09
上野毛	美術	情報デザイン	メディア芸術 情報デザイン	122	488	583	1.19
		芸術学		40	160	192	1.20
		統合デザイン		120	480	516	1.08
上野毛	美術	演劇舞踊	演劇舞踊 劇場美術デザイン	80	320	280	0.88
合計				1,015	4,060	4,374	1.08

6. 学部学科・専攻別進路状況

【大学院】

2024（令和6）年3月31日現在

キャンパス	研究科	専攻	研究領域	修了者	就職希望者	就職者	進学者	その他
八王子 及び 上野毛	美術研究科 博士前期課程	絵画	日本画 油画 版画	47	25	24	3	20
		彫刻		13	11	7	0	6
		工芸		14	31	9	0	5
		デザイン	グラフィックデザイン プロダクトデザイン テキスタイルデザイン 環境デザイン 情報デザイン 統合デザイン	68	45	32	5	31
		芸術学		3	2	2	0	1
		演劇舞踊	演劇舞踊 劇場美術デザイン	1	1	1	0	0
	小計		146	115	75	8	63	
	博士後期課程	美術		6	3	3	0	3
合計				152	118	78	8	66
修了者に対する割合						51%	5%	43%
就職内定率（就職者÷就職希望者）				66%				

【学部】

キャンパス	学部	学科	専攻・コース	卒業者	就職希望者	就職者	進学者	その他
八王子	美術	絵画	日本画 油画 版画	199	98	78	51	70
		彫刻		31	16	14	7	10
		工芸		57	31	25	11	21
		グラフィックデザイン		175	124	109	16	50
		生産デザイン	プロダクトデザイン テキスタイルデザイン	104	76	68	6	30
		環境デザイン		81	53	47	9	25
		情報デザイン	メディア芸術 情報デザイン	134	81	68	10	56
		芸術学	芸術学	45	24	23	13	9
上野毛		統合デザイン		107	86	76	5	26
		演劇舞踊	演劇舞踊 劇場美術デザイン	64	32	30	9	25
合計				997	621	538	137	322
卒業者に対する割合						54%	14%	32%
				87%				

※その他には、作家（希望者を含む）、留学（準備者を含む）、帰国（留学生）等を含む。

7. 役員に関する情報

2023(令和5)年5月1日現在

役員(11名)		評議員(21名) (五十音順)	
理事 9名		評議員	青柳 正規
理事長	青柳 正規	評議員	安藤 礼二
理事(学長)	内藤 廣	評議員	安次富 隆
理事	安楽 康彦	評議員	安楽 康彦
理事	小泉 俊己	評議員	大貫 卓也
理事	和田 達也	評議員	岡村 桂三郎
理事	川上 典李子	評議員	久保田 晃弘
理事	常盤 豊	評議員	小泉 俊己
理事	深澤 直人	評議員	忠政 重信
理事	渡邊 敏	評議員	日高 理恵子
		評議員	深澤 直人
監事 2名		評議員	松浦 弘明
監事	田中 誠二	評議員	中村 一哉
監事	宮本 和之	評議員	古谷 博子
		評議員	水上 嘉久
【参考】 理事定数 7～10名 監事定数 2～4名 評議員定数 21～23名		評議員	山下 恒彦
		評議員	和田 達也
		評議員	川上 典李子
		評議員	内藤 廣
		評議員	楠 房子
		評議員	木村 聡

8. 教職員に関する情報

2023(令和5)年5月1日現在

教員数 (本務者)		教員数 (兼務者)	
学長	1名(0名)		
教授	101名(27名)	客員教授	66名(19名)
准教授	25名(5名)		
講師	7名(6名)	非常勤講師	452名(165名)
学部助手	46名(26名)		
大学院助教	3名(2名)		
合計	183名(66名)	合計	518名(184名)

()内は女性教員内数

◆教員の保有学位・実績等：多摩美術大学教員業績公開システム <http://faculty.tamabi.ac.jp/>

職員数	175名(95名)
-----	-----------

9. 学習環境に関する情報

上野毛キャンパス 大学院 美術学部	[所在地] 東京都世田谷区上野毛 3-15-34
	[主な交通手段] 東急大井町線「上野毛駅」下車、徒歩 3 分 東急田園都市線「二子玉川駅」下車、徒歩 12 分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本館、1号館、2号館、3号館、講堂、図書館、A棟、B棟、 演劇舞踊スタジオ、食堂棟 Mensa、教室棟 Cube

八王子キャンパス 大学院 美術学部	[所在地] 東京都八王子市鎌水 2-1723
	[主な交通手段] J R 横浜線・京王相模原線「橋本駅」下車、神奈川中央交通バス「多摩美術大学行」8 分 J R 「八王子駅」下車、京王バス「多摩美術大学行」20 分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本部棟、絵画東棟、絵画北棟、彫刻棟群、工芸棟群、デザイン棟、テキスタイル棟、情報デザイン棟・芸術学棟、共通教育センター、 図書館、メディアセンター、レクチャーホール、アートテーク、グリーンホール、体育館、T A Uホール、工作センター、第二工作センター、 学生クラブ棟、画材店
[運動施設の概要] 体育館、グラウンド、テニスコート	

[学外施設]
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生寮「多摩美オリーブ館」（東京都町田市） ・ 複合施設(予定)「BLUE CUBE(仮称)」（東京都町田市） ・ 大学附属美術館（東京都多摩市） ・ 富士山麓セミナーハウス（山梨県） ・ 奈良古美術セミナーハウス（奈良県） ・ 情報発信拠点「TUB (Tama Art University Bureau)」（東京都港区）

[附置研究所]
<ul style="list-style-type: none"> ・ アートとデザインの人類学研究所（八王子キャンパス）

II. 事業の概要

1. 中長期計画：2020年4月1日～2025年3月31日

(1) 教育及び研究体制の整備と再点検

- ①大学基準協会の認証評価に指摘されている改善事項への取組（2022年度中を目途）
- ②STEAM教育の一翼を担うことを念頭においた教育体制の整備（5年以内）
- ③研究論文の増加のための施策 目標 50件（5年以内）

(2) 学生受け入れ態勢の強化

- ①キャリアセンターの充実による就職率のアップ
（就職内定率 87%以上、2023年度までに90%以上）（3～5年以内）
- ②安定的な入学者獲得に向けた入試制度の検討、見直し（3～5年以内）
- ③学生相談等の充実（3～5年以内）

(3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成の環境整備

- ①英語を主としたネイティブスピーカーの採用（3～5年以内）
- ②外国語に接する機会を増やす環境づくり（3～5年以内）

(4) 国際交流の推進・制度化

- ①海外大学への積極的な働きかけによる交換留学生の受入れ等の増加（5年以内）
- ②新規海外協定校の増加（3～5年以内）
- ③学生が留学しやすくなる制度設計（3～5年以内）
- ④国際交流センターのサポート体制の充実（3～5年以内）

(5) 専門性と総合性の融合を目指した改組による教育改革

- ①教育課程、教育方法、FD等の改善充実（5年以内）
- ②学科の改組と入学者選抜の検討及び独立大学院の検討を含む大学院改革に対応した、全構成員の協働による「教育改革アクションプラン（仮称）」の策定と推進（2022年度中を目途）

(6) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備

- ①上野毛キャンパス再整備と八王子キャンパスとの連携（5～7年以内）
- ②オンライン教育充実のためのネットワーク整備（2022年度中を目途）
- ③八王子キャンパスの大規模修繕計画作成と実行（5～10年以内）
- ④共通施設の充実と利用しやすさの推進（3～5年以内）
- ⑤学生寮建設後の運営体制の確立と充実（3～5年以内）

(7) 社会・地域連携の拡大

- ①産官学の連携により、SDGs等の社会課題解決に貢献（3～5年以内）
- ②自治体、地域の自治などの課題解決（3～5年以内）
- ③社会人の学び直しに対応した教育の提供（3～5年以内）
- ④発表・創作活動の活性化（3～5年以内）

⑤事業法人を設立し、大学業務の支援体制を構築（2022年度中を目途）

（8）美術大学の教育及び研究内容の社会伝達と浸透

①21世紀の美大イメージの確立（3～5年以内）

②教育研究内容の積極的なPRによる存在意義の浸透及びブランディングの確立（3～5年以内）

（9）管理運営の強化

①事務組織の見直しによる新しい体制の確立（2022年度中を目途）

②評価制度の導入（3～5年以内）

③魅力ある職場づくりによる多様な人材の確保（3～5年以内）

④定期的な異動、評価制度の見直し、専門職などの人事制度の確立（5年以内）

⑤各委員会組織の権限・位置等の再点検（2022年度中を目途）

⑥財務の継続的な安定と、収入の基盤強化（資産運用収入、寄付金収入の100%増）（5年以内）

⑦クラウドファンディングなどの導入による研究活動資金の持続的な獲得体制の推進（5年以内）

⑧予算制度の見直しとPDCAサイクルの確立（5年以内）

⑨危機管理体制の確立（2022年度中を目途）

⑩情報共有化に向けた学内体制の検討（3～5年以内）

⑪規程の再点検（3～5年以内）

2. 各事務部署の取組み

（1）教育・研究運営面の推進計画

◆教務部

【教務課】

①共通教育科目の教育課程の見直し

リベラルアーツセンター運営委員会で議論し、今日的な課題の理解につながる科目として、2024年度にISSUES科目を開講することを決定した。また、幅広い科目群として、アジア美術と哲学の開講を検討したが、専任教員の採用までは至らなかったため、次年度へ持ち越しとなった。

②大学院修士課程の特待生制度の実施運用

初年度の実施運用を着実にを行い、11名の優秀な大学院生の確保ができた。運用に関して研究室から様々な意見が挙げられ、微修正は必要なものの、基本的には今年度実施運用を踏襲したい。なお、残念ながら学内日本人の志願者割合は前年度13%、今年度12%とほぼ同様であった。また、3名の辞退者もいた。

③大学院修士課程のダブルディグリーの実施検討

シラパコーン大学と受入体制、派遣体制の概要について調整し、協定書を結ぶところまで進むことができた。次年度は詳細な確認を行い、実施運用を行う。

④オンライン科目（オンデマンド配信）の充実

オンライン科目の充実をはかったが、十分とは言えないので、引き続き教員への理解のもと科目拡大を行っていく。なお、オンライン授業の実施条件を緩和し、講義科目以外の実技科目、演習科目についても内容によっては実施できる体制に整えた。

⑤大学基準協会の認証評価結果への対応

今年度は特に具体的な検討を行えなかった。次年度へ持ち越しとなった。

【入試課】

①入学者選抜の制度を整備し志願者の確保につなげる（継続）

一般選抜に於いては、102.1%の志願者増を達成し3年連続の増加（昨年度109.0%増）。しかし、演劇舞踊コースでは4年連続定員割れを起こしており、演劇舞踊デザイン学科の抜本的見直しが急務である。

特別入試においても志願者が増加している。しかし、更なる志願者の増加は試験運営の日程（時間）と会場の制限があり、運営方法の検討が必須である。

外国籍の志願者増加に伴い、出願資格の見直しの継続的な実施が必須である。

②出願資格審査の整備

学歴の多様化が進み、出願資格の確認が複雑になっている。

特に外国人の出願資格審査、出願書類確認に時間が掛かっているため、引き続き出願資格の整備、願書受付マニュアルの見直しを継続して実施する。

③学生募集及び入学者選抜の解りやすい情報提供の改善（継続）

学生募集要項は、構成の見直しを行い簡素化に努めているが、簡素化により受験生に対して説明が不足していないか内容を確認する。

④一般選抜の運営方法と事務組織の検討

一般選抜に於いても一部の研究室は、特別選抜と同様な研究室主体の運営体制にすることで、実施・配置の業務軽減を図った。

入試期間中の通常業務の増加により、事務職員より入試運営について改善の要望がある。

今以上の業務軽減、実施経費削減を行うために、試験時間・試験科目の見直しが必須である。

⑤特別選抜、大学院選抜の運営を再検討（継続）

大学院選抜と外国人留学生選抜の出願書類処理に、今まで以上に時間が掛かり確定処理が遅れている。今後も出願書類処理に時間が掛かる事が予想されるので、作業方法の改善を検討することが急務である。

グラフィックデザイン学科は、1次選考を実施することにより面接試験の時間的制約と人員不足の解消を実施した。

【研究支援課】

①持続的な研究資金獲得を目指し、競争的研究費獲得のための支援体制強化

科学研究費助成事業の獲得支援サービスとして、従来の外部業者による申請書添削サービスに加え、研究企画のためのワークショップ実施などを行い、応募件数の増加につなげた。また、産学連携については、TUBを拠点とする「すてるデザイン」プロジェクトでは、競争的研究費等の応募や、サポートパートナー企業の増加により、プロジェクトを拡大した。

②学内研究活動の支援プログラムの見直しと研究活動の積極的なPRによる研究力の強化

学科横断の学内共同研究制度はコロナ禍が終わり、各研究課題が積極的に活動を行った。また、科研費の応募件数増加のための奨励費制度は、制度の見直しにより応募者が増加した。研究に関するホームページについては、内容を更新、修正するとともに、ホームページの大幅改編に向けた検討を実施した。新設の研究派遣制度では、来年度、1名の派遣が決定した。

③研究不正、研究費の管理体制及び産学連携に係る各種ガイドラインの遵守によるリスクマネジメント体制の整備

教員向け、博士後期課程学生向けの研修会及び著作権ハンドブック、動画講座による学生への研究倫理教育を実施した。また、来年度の研究倫理教育について、より教員のニーズに即した研修会の開催やe-learningの導入などを決定し、教育内容を充実させた。研究倫理等に関する啓発活動を四半期に1度実施した。

◆学生部

【学生課】

①「これからの学生支援に関する方針」に基づく適切な支援の実施

「これからの学生支援に関する方針」を構成する「修学」「生活」「学生寮」「正課外活動」「学生からの要望」といった幅広い分野において、それぞれの担当は強い責任感のもとで方針を意識した支援を行った。休退学や欠席過多対応においては、保証人や研究室、またキャンパス間で強い連携を発揮した。課外活動においては学生自治の体系に変更こそあったが、コロナ前と変わらないレベルまで活性化するよう、クラブサークル加入学生や芸術祭実行委員への助言や立会等、寄り添った支援を行った。大学直営寮もRAや委員会も含め、運営を軌道に乗せることができた。学生生活調査は8年ぶりとなったが初めてデータによる実施に向け、回答率が上がるよう研究室と協働し依頼や回収を行った。

②奨学金その他の経済的支援の整備、授業その他の経済的費用に関する情報提供

本学奨学金・授業料減免は成績優良者を採用・評価する方針や採用人数を増やすといった支援拡大を目的に変更した1年目となったが、スムーズに年間を通した業務を実施できた。日本学生支援機構の奨学金についても業務委託業者との連携や結束が強まった。地方公共団体・民間奨学金についても応募者採用者、総給付額も増加した。奨学金・授業料減免それぞれの特徴を学生に発信する1年でもあった。

③学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮

学生課・保健室・学生相談室の連携はキャンパス間も含め適切に共有が行われた。保健室からの情報発信についてもコロナ5類移行後も校医やセミナーなどから知見を得ることで、学生や教職員に安全な授業や学事ができるようアドバイスを行った。合理的配慮は学生や教員と面談を重ねた結果をもとに、身体やメンタルの状況を考えそれに見合う支援を行った。学生からの相談体制も相談室・法律相談、それぞれの相談体制の特徴を活かす運用を行うことができた。ハラスメント防止に向けては新たにリーフレットを発行・周知する等々、学生や教職員にこれまでより一層意識づけを強めることができた。

【キャリアセンター】

①多様化するキャリア支援

タマキャリア登録者数は学部・修士で58%と目標に届かなかった。SNS利用はX（旧Twitter）を中心に情報発信を行った。LINEの利用はブロック可能なため再検討している。

アーティスト支援講座は既卒生・学内関係者の参加もあった。

②教員および研究室との連携強化

キャリア支援委員だけではカバーできない部分を、他教員の研究分野から情報収集を行った。

③キャリアセンター認知度向上

低学年・多様なガイダンス実施によりキャリアセンターの認知度は多少上がった。

敷居が高い・怖いというキャリアセンターのイメージ払拭のため広報誌作成を試みた。

④外国人留学生への進路・就職支援／配慮を要する学生進路・就職支援

外国人留学生向け就職情報は巷にあふれているが、そこからクリエイティブ職にたどり着くのは難しい。職種にこだわる本学学生へは情報が少なく満足度を上げるのは困難であった。

配慮を要する学生情報の共有に課題が残った。

【国際交流センター】

①新規海外協定校の増加

Cumulus加盟組織からの交流希望メールが定期的に届いている。これは、アート&デザインの世界における本学の知名度向上に少なからず良い影響を与えている証拠である。

2023年11月にロンドン芸術大学ロンドン・カレッジ・オブ・ファッションと新たに協定を結んだ。また、更にアメリカの名門美大であるPratt Instituteとの協定締結に向けて現在調整中であり、2024年度中には協定が結べる見込みである。

新規協定校を結ぶ条件設定を明確にして今後の増加に結び付けたい。

②海外への積極的な働きかけによる交換留学生の受入れ等の増加

シルパコーン大学（タイ）とのダブルディグリー制度設立のため調整を行った。

交換留学を実施できていない梨花女子大学校（韓国）に対して、新たに交換留学協定の締結・中央美術学院（中国）と、学生交換できる学科の拡大の提案を行った。

国際交流活動運営費の活用により、協定校以外とのワークショップ実施を促進することができた。

Pacific Rimプロジェクトにおいて、4年ぶりに本学の学生をアメリカに派遣した。

Connecting Wool Projectにおいては、9月に本学の学生をノルウェーに派遣し、オスロ国立美術館併設の国際ファッションリサーチライブラリーで展示を行った。

③学生が留学しやすくなる制度設計

ダブルディグリープログラムの設立により、特定の優秀学生に限るが、派遣時期は半期から通年になる。

イベント開催時の広報活動により、英語検定試験の受験料補助の利用者が昨年より33%増加した。

交換留学や大学院留学を検討している学生たちによる英会話練習のグループができた。

短期語学留学プログラムを立ち上げ、2024年度に試行となった。

④国際交流センターのサポート体制の充実

学生生活でのトラブルや学費未納に関して、学生の母国に連絡をし、学生の状況を保護者に共有することができた。

本学WebサイトおよびSNSにて奨学金情報やイベントについて定期的に通知をした。結果、X(旧Twitter)に至ってはフォロワー数1000人を突破した。

留学生サポートに充実のためチューター制度の設立し、2024年度より運用する。

英語に限らず、中国語や韓国語などの語学力向上を目指す学生に勉強方法の指導、教材を提供した。

⑤外国語に接する機会を増やす環境づくり

英語スピーキング練習のためにラウンジを活用できた。

春と秋の国際交流パーティーでそれぞれ100人を超える参加者で学生同士の交流が盛んとなった。

アートセンターのご協力のもと、アメリカ留学対談イベントを開催した。参加学生にアメリカ留学を現実的に考えてもらうきっかけとなった。

JICAイベントを年に2回開催した。実際の参加者から海外協力隊の内定者も出た。

広報部との連携をして英文の大学案内作成を目指したい。

◆附属図書館情報センター

(図書館担当)

①新しい図書館像の検討(中長期的な)

新たな見学・撮影のルールを決め、5月から運用を開始した。STEAM教育を意識しバランスの良い選書を行った。

②サービス(単年度)

ガイダンス、授業連携、Webコンテンツの充実などで、利用者にとっての図書館の使いやすさの向上を図った。通常のテーマ展示に加え、授業と連携した展示、選書委員による選書の展示などを行い、好評であった。

③発信と協働・連携(単年度)

Webサイトの充実とLINEポイントの導入で学生への発信の強化の成果が得られた(入館者増)。言語と美術コレクションの利用の公開を行った。

④運営・管理(単年度)

図書館システムの更新を行い、周辺機器設備も合わせて更新した。上野毛キャンパス工事の影響を受け、上野毛図書館は臨時閉館を余儀なくされることがあったが、利用者サービスへの影響を最小限に抑える努力をした。

(情報担当)

①学内システム更新や機能追加の調整と検討

研究室へWebアンケートを実施し、主に出席管理システムの利用調査を実施した。学内システム導入については、優先度と利用調査結果を考慮し施設予約システムをリリースした。

②ユーザサポート機能の定型化

学内サイト構成や内容をユーザライクなコンテンツに更新した。キャンパスネットワークシス

テム管理における体制を新たに構築し、学生や教員へのサービス提供や運用プロセスの是正などを実施した。

③教務系基幹システム更新の調整と検討

機器更新についての管理経費低減のため、保守内容・契約内容を見直した。基幹システムについて、機能・コスト・業者対応を鑑み、新規ベンダーに乗り換え、コスト削減、機能拡充を行った。

◆附属美術館

①収蔵作品調査（目録作成）

実作品の点検を行う調査として最終年度に位置付けた2023年度。年度始めには美術館移転があり、本業務開始が5月以降となったが当初目標を上回る約3000点の作業を行った。全体数約13,000件の調査完遂となったのは、担当学芸員の尽力と、全学芸員の調査参加、後任者へのスムーズな引き継ぎ、目標完遂へ向けたチームワークの結果である。

②博物館実習

BLUECUBEにおける初めての実習年度。実習の核となる「個別実習」では、「ミュージアム業務体験」を良いものとするため、準備を入念に行い、作品調査から展示作業、ミュージアム運営、企画立案などの実務性の高いメニューを用意し、学生からは「実践的な美術館業務を体験できた」という感想が多く寄せられた。当館の実習意図が伝わる内容が実践できたことと理解している。

③アートテークギャラリー運営

6月以降の業務担当となり、試行錯誤のこともあったがAACからの引き継ぎを積極的に行う他、運営委員への緊密な確認、開催団体との丁寧な連絡を遂行し、運営を円滑に行うことができた。本業務の遂行は担当職員達の緻密な計画と気配りそして現場・プラン作成・書類作成作業が総体となり功を奏したものである。

④作品データベース構築

目標①は、2023年度の調査済み作品 [4,000件をデータベースに統合（全未登録件数中の約50%）した。

年度途中の学芸員退職、さらに2023年度新規のアートテークギャラリー運営業務対応等、優先業務の再分配があり、②、③～⑤を見直し次年度に繰り越す計画とした。しかしながらミニプリント・トリエンナーレ関連作品（2,464件）、及び文様研究関連資料群（665件）の新規カード新規作成を行うなど、着々と情報の蓄積は進められている。

◆附属メディアセンター

【事務室】

①Adobe Creative Cloud 利用促進支援 / コンピュータスタジオの環境整備

Adobe利用促進に関してはいずれの目標も達成することができた。コンピュータスタジオの環境整備に関しては機材整備計画がまだ進められていないため、今後も継続して取り組みたい。

【情報センター】

①@tamabi ver.6 / IIJによるネットワーク強化工事の補助 / Mc-Mail サービス終了 / 技術職員退職（1名）に伴う新体制の検討

@tamabiVer6において、委託業者を最適な業者への変更を提案したが、他の担当部署への移行を命じられたが遂行できた。

ネットワーク強化について、IIJの指示通りに設定変更を行えた。

MC-Mailは、順調に4月末で終了予定。

新体制については、部署がなくなったことにより、委託業者を通して、他部署へ業務移行を完了した。

【映像センター】

①映像スタジオの施設・設備の管理運営／対面サポートと感染症対策／FabCAVEとの連携(3Dオブジェクト作成・修正)／メディアホール・撮影スタジオの管理運営

23年度は貸出機材(2516機)・映像スタジオ利用(2067名)ともに過去最高だった。貸出カウンター2名分と返却カウンター(相談窓口としても利用)を設けたことで以前より学生対応が取りやすくなった為、機材初心者への対応もFabCAVE・CMTelと連携し3Dソフトのワークショップの開催もできた。

一方で初心者ニーズを広げたことによる返却遅延が多く見られた為、次年度より貸出の際の説明、遅延した際の対応を試みたい。

【写真センター】

①施設・機材の有効活用／講習会の開催／貸出機材の更新／施設・設備の更新と維持／カラープリンター暗室の運転終了

貸出デジタルカメラの約80%が一眼レフからミラーレスに置き換わり、学生の利便性は更に向上した。機材貸出件数は前年比約140%(前々年比は約180%)に増加し、過去最多の1,994件(機材点数は6,868点)となった。(これまでの最多は2015年の1,853件、5,891点。)

貸出件数に比例して機材故障も僅かではあるが増加しているため、利用学生へのより丁寧な説明及び管理・メンテナンスを強化したい。

施設についてはインクジェットプリンターの利用数が前年比120%(280→349)に増加。撮影スタジオは通年で見ると前年比約90%(645→576)ではあるが、後期の利用数だけ見ると微増しており(338→354)、繁忙期は3割ほどの学生が予約できない状況には変わりなく、スタジオスペースの拡張が課題である。

職員の入れ替わりにより講習会の実施回数が前年から減少(年間90回→60回)。それに伴い受講者数も減少しているが(385人→320人)、1回の参加率は増加している(4.3人/回→5.3人/回)。

【工作センター】

(八王子)

①運営／利用時間・方法／工作機械の使用条件／立ち会いの必要な工作機械の使用／その他

工作センター八王子では、各学科の授業・課題の担当教員等との事前打ち合わせを行い、情報共有しながら、安全な施設運営を行うことができた。工作センターの安全対策の要である見学会や講習会等は、年間458回(1380名受講)に及び、施設の安全利用における重要な役割を果たしました。また、全学的に1限～4限を利用時間とし、工作センター職員の学生対応の層を厚くすることで、学生の利便性を高めることができました。また、複数学科の授業・課題の対応も

調整しながら安全に進めることができました。更に、グラフィック研究室から要望があった卒業制作での5限以降の対応は、研究室と連携をとり対応しました。

(上野毛)

①塗装ブース排気ファン及び屋外モーターの更新工事/NC ルーターの導入/備品の貸し出し開始/依頼加工の開始

塗装ブースの交換工事は、上野毛校舎建て替え工事の影響による心配があったが、無事終わることができた。以前と変わらず通常通りの運営ができ、卒業制作等への支障もなく稼働することができた。

夏季に大型NCルーターの組立設置を完了し、後期より試験運用することができた。両学科共に利用があり、制作における発展につなげることができたと感じる。

貸出備品に関しては、材料固定工具を開始し、引き続き精査しながら品目を増やしていく。

NC加工機（3D）での加工を受託し、卒業制作等で大いに貢献できた。

【CMTEL】

①基本方針/展示収蔵品の収集、充実、管理/学生サービスの充実/学内外へ向けた広報活動/授業・他部署・研究室への協力

2023年度はCMTEL館内展示収蔵品について、新規素材を7つ（7企業）追加した。既存展示品についても資料等更新した。

CMTEL主催のワークショップ・イベントを12テーマを開催した（オープンキャンパス含む）。

イベントの参加者は前年比153%増加した。（2022年度393名→2023年度603名）

メディアショーケース、八王子キャンパス世界堂のショーケース、CMTEL館内での展示を積極的に行った。

学生の作品制作における相談窓口として利用者数を維持した。CMTEL所有の機材レクチャーも積極的に行った。

学内・学外へ向けた広報活動（CMTEL NEWS・X・Instagram）を積極的に行い、CMTELの新しいホームページを制作した。（2023年4月より開始）

【FabCAVE】

①ファブリケーション施設運営/映像センターとの連携（3Dオブジェクト作成・修正）/その他

3Dプリンターでの出力・作成支援を行った。3Dプリントを初めて体験する学生へのレクチャーや、授業課題や卒制の相談対応、個人制作への支援などを行った。映像センターとCMTELに協力していただきワークショップを開催した。Macコレクションを整理し準備室を撤収した。VRコンテンツは各部署と連携して制作した。

【上野毛スタジオ】

①運営方針/講習会の開催/機材の整備

2週間に1回のペースで講習会を開催し多くの学生が参加した。順次必要な機材を揃え、スタジオと機材を整備した。

◆附属アートアーカイヴセンター

①資料活用

所蔵資料が教育研究資源となるよう、授業での活用（3回の授業展示含む）、本学院生・学生の資料閲覧、資料展示（3回開催）など、初期段階の目標はすべて達成した。取り組みは始まったばかりであるが、たとえば資料展は教員・学生の反応もよく、今後さらに全学的に資料を利用してもらうためにも継続が望まれている。

②資料整理

資料保存と同時に授業や展示などで資料が利用できるよう整理している。資料体に応じてボックスレベル、アイテムレベル等のリスト作成を行なった。和田、大野、もの派、瀧口、北園、文様、横山、秋山、安齊、勝見等と多くのアーカイヴから資料の利用があった。

③資料の収集拡充

本学に関係する、秋山邦晴資料、東野芳明資料、もの派作家の資料を収集拡充した。収集した資料は、保存と同時に今後の利用も見越して、燻蒸、整理分類、リスト作成、画像作成（4,000点以上）等を行なっている。

④AACの活動内容および研究成果の学内外への発信

AAC案内リーフレット、紀要のリニューアルを行なった。12月のシンポジウムでは授業の資料活用例などを報告した。教育機関にある施設の特長として外部の評価も高かった。また新規取り組みの資料展（4月-5月：「和田誠の世界I」監修高橋所員、6月-7月：「北園克衛I」監修学内共同研究会、1月：「《大ガラス東京ヴァージョン》制作中！」（滝口修造、東野芳明、安齊重男、学生諸氏）を開催した。ホームページでは、シンポジウムはじめ資料展の記録動画・画像を公開した。日常の取り組みやイベント案内ではSNSも活用している。学内外のプレゼンス向上のためにも継続的に様々な形で活動内容・研究成果の情報発信を行なっている。

⑤和田誠アーカイヴ資料貸し出し

長期間にわたる大規模貸し出しの返却を前期後期2回にわけて無事終えた。その他、展覧会・出版社等の複数回の貸し出しを著作権者と共有しながら丁寧に対応した。

⑥収蔵庫の環境整備（IPM構築）

温湿度管理や清掃は日常業務として定着している。空調等設備の故障などは関係部署と連携をはかりスピード感をもって対処した。収蔵庫の環境整備は費用がかかるため、今後の課題を複数部署と共有し、多くの人の関心と理解が得られるよう努めている。

◆アートとデザインの人類学研究所

①芸術のもつ可能性を人類学的な視点から捉え直すとともに、人間の表現の根源を探究し、広義の地球環境としての「土地の力」を再発見することを目的とした研究調査と成果報告を行なった。

- ・「記憶の道」シンポジウム開催：人類にとってアートとデザインの礎でもある「石」をテーマに人間の創造性をめぐって研究発表と議論を展開
- ・「災害記憶の継承と芸術表現」調査：長崎県島原半島において自然災害（火山噴火、大豪雨）の記憶を伝える史跡・記録、芸術作品・活動を対象に研究調査を実施
- ・研究紀要『Art Anthropology』第19号発行

②本学における人文諸科学的な叡智を結集する場として、学内研究事業と連携を図りながら、領域横断的に本学のアートとデザインを結ぶ拠点として活動を展開。

- ・芸術学科共催 公開イベント開催：杉謙太郎氏「Blind Flower 盲目の花」

- ・情報デザイン学科共催 特別講演会開催：エヴァ・リン氏「浅山論——サイトスペシフィックキュレーションの挑戦」
- ・図書館・美術館協力 展覧会・公開講義開催：「幸運のアートとデザイン：オラクルカードがやって来る！」
- ・図書館共催 公開イベント開催：「我楽他宗の磁力——趣味、芸術、神智学」
- ・授業科目への還元：情報デザイン学科「現代色彩論」、共通教育「20世紀美術論」「現代美術ゼミ」、グラフィックデザイン学科「エディトリアルプロジェクト（境界芸術演習）、芸術学科「芸術人類学」

③科研費等をはじめとする外部資金獲得に向けて組織的に討議を重ねた。長期的な研究成果の持続的創出を図るため、さらに研究資金の規模拡大および研究環境の充実を目指す。

- ・【科学研究費助成事業採択課題】
- ・「現代美術の触覚的体験を用いた平和学習のメソッド構築」（港千尋所長、基盤研究（B）[課題番号：22H00630]）
- ・「エトルリアを基軸とした文化的連続性と研究領域の確立」（金沢百枝所員、挑戦的研究（萌芽）[課題番号：21K18342]）

④海外研究機関、研究者との協働により、近年ますます注目を集めている「Art Anthropology」「Design Anthropology」の学問分野において、今後国際的な研究拠点となることを目指し交流・連携事業を展開。

- ・海外研究機関への研究協力：ハワイ大学・ジョンヤング美術館、スペイン・マドリード・コンプルテンセ大学 ほか
- ・海外研究機関での研究発表：中国芸術研究院・芸術人類学学会、東京大学先端科学研究センター ほか

(2) 管理運営面の推進計画

◆大学戦略室

①学校経営に関する企画と提案

大学戦略会議の設置により、懸案事項を実施する体制を構築した。

(大学史担当)

①大学史資料の確認と整理

3号館305号室の環境整備を行い、資料の分類を始めた。講堂と本館建て替えに伴い、保存すべき資料を移動した。八王子キャンパス内に大学史資料のための仮保管スペースを確保し、資料の保存を始めた。アーカイヴセンターから資料の移管を完了させた。BLUE CUBE内に大型資料を保管した。資料整理のための環境が整い始めた状況。

②大学史資料の保存

閲覧用資料と貴重資料は、上野毛3号館に置き、保存資料は八王子グリーンホール倉庫に置くこととした。大型資料は、BLUE CUBEに置くこととした。

データベース化の第一段階としてエクセルファイルでデータ入力を開始した。

③大学史資料収集

各研究室・事務部門に刊行物提供依頼を行い、収集を行った。美術館に協力を依頼し、図録のリスト作成、収集を進めた。国立公文書館・東京都公文書館にて本学関係の資料収集を行った。

認可書関係資料のスキャニングを行った。資料の保管について、当面、現状の環境で保管することとした。

④他大学の大学資料室、大学史編纂の調査(小規模～中規模)

他大学の大学史資料室の見学を行った。武蔵野美術大学、女子美術大学、日本大学を訪問し、展示室・保管庫見学と担当職員との面談を行った。

⑤大学史資料委員会設置の検討

安藤礼二教授が大学史担当教員として着任し、資料整理方針、活動計画を策定した。各専門分野の教職員との協力体制については、90周年に向け段階的に進めることとした。

◆広報部（メディア戦略課・高大接続課）

①入学試験に関する市場調査ならびに諸統計などの収集・分析

- 2023年度入試結果データ分析
- 大学進学指標ランク別分析
- 募集広報につながるVIツールを利用した統合データベース年度更新
※過去データを連結したベンチマーク分析の実施等。

②学生募集に関する企画と提案

志願者数の確保とともに、質の高い学生獲得に向けた選抜プランの作成と提案を行う。

- 2023年度入試 志願者獲得
 - ・2024年度 総数 7,356
 - ・2023年度 総数 7,263
 - ・2022年度 総数 6,726

③広報メディアのクオリティアップ

- Webサイトの再構築を実施。TOPページのリニューアルとブランディング動画の搭載。一般職員が更新できるサイトとして、マニュアルの整備とWebサイトの更新アプリケーションを導入。
- 「世界に存在感のある大学となる」取り組みとして、海外で活躍するアーティストや、海外受賞情報、国際交流プロジェクト、留学生受け入れ、EWS等の記事を積極的に取り上げる。
- 大学案内の発行を、募集広報上、最適な時期に発送できるように企画、実行。
- 15領域の学科紹介動画のリニューアル、2024年度にかけて実装予定。
- 広報誌TAMABINEWSの制作、発行。
- LINE、ツイッター、InstagramといったSNSツールを用いた情報発信を実施。

④大学広報の強化

- 志願者獲得イベントなどの対応
 - ・オープンキャンパス実施
 - ・オンラインオープンキャンパスの実施
 - ・秋のオープンキャンパスの実施
 - ・芸術祭の場を利用した進学相談会の実施
 - ・高校教員向け大学説明会の実施
 - ・全国進学相談会への参加
 - ・高校ガイダンスへの参加

- ・学校見学の対応
- ・六本木デザインHUB (TUB) を利用した進学相談会の実施
- 番組制作等、各社メディア対応
- 社会連携案件対応
- パブリシティ獲得にむけた情報発信の強化
 - ・プレスリリース配信

◆社会連携部

【社会連携課】

①社会や地域との共創、アートやデザインによる社会課題の解決や、学生の創造的学びに資する社会連携活動の実施

大学コンソーシアム八王子においては運営副委員長として同活動に参加し、八王子学園都市大学への日本画講座提供、学生ボランティアの派遣協力など地元地域との協働を推進した。

- ・東京都とは24年度の開催に向けて小中学生を対象にしたキッズユースオープンキャンパスの実施計画を取りまとめた。
- ・山梨県とはデザインセンター整備調査や、やまなしメディア芸術アワード審査員への教員協力の連携を行なった。
- ・東京春音楽祭では学生カメラマンのコラボレーション企画を実現した。
- ・TUBではポケモンと協力した環境教育展、中高の探求教育やデザイン初学者に向けた教育プログラムの提供、在学生の展示機会の創出などを行なった。
- ・アーティスト支援そして多くの人びとへ創造のよろこびを伝える場としてアキバタマビ21に代わる活動になるUp&Comingの立ち上げ整備を行なった。

②多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム (TCL) の運営と情報発信

- ・当年度も3期（うち1期は企業向けエクステンションプログラム）の講座を予定通りに開講し修了生も計343名となった。
- ・企業に向けたプログラムも実施し、TCL設立当初より掲げていたソリューション業務、オンラインによる新たな講座提供方法などの可能性を探ることができた。
- ・10期終了を機会に修了生からの個別ヒアリングなども実施し、講座終了後も継続して主要講師陣との協議を重ね、かつ講師陣全体のリエゾンの役割を強化した運営を行っている。

③東工大・一橋大との「価値創造人材育成拠点の形成事業 Technology Creatives Program (テックリ)」の実施と展開

- ・本学パーパスプログラムパートの実施も滞りなく提供した。
- ・調査研究ではリカレント／リスクリングの教育に関する社会のニーズ・動向調査を実施、今後の人材教育、プログラム発展の基礎資料を作成した。
- ・また、よりテックリプログラムの浸透や認知を図るためオンライン講義動画プログラムを新たに作成、本学のTUBコンテンツであるTama Design Universityと連携するかたちでの一般公開を行なった。

④サーキュラーデザイン

SDGs時代の廃棄物循環型 社会・経済モデル実現へ向けた取り組みの推進

- ・学内教員を組織しサーキュラーオフィスを立ち上げた。キックオフイベントを含め6回のトー

クイメントを実施。企業にもアプローチし寄付を含め協力体制を構築。24年度に向けてはリベラルアーツセンターのissues科目として「サーキュラー×アート×デザイン～美術を通じた循環社会の探究」を設置した。

- ・すてるデザインでは新たに日本郵船株式会社、合作株式会社、株式会社TOWING、株式会社LIXILをサポートパートナーに加えプロジェクトを推進。契約や各種申請、授業・研究、展示発表、広報などを支援した。

【生涯学習センター】

①本学の持つ潜在的な力、リソースを活用した生涯学習プログラムの企画立案

- ・講師選定は、シラバスやネット情報だけでなく、センター長からの生きた情報を使い本学教員へ講師依頼を行っている。
- ・あそびじゅつ(宅配含む)は、2023年後期に新たなプロデューサー2名を迎えた。大規模講座「〇〇世紀の芸術家列伝」は、本学関係者だけでなく、学内教員の紹介による専門家・他大教員の登壇も活発に行われており、質の高い講座提供が維持できている。

②社会や地域への教育研究内容の伝達と浸透を目的とした生涯学習プログラムとしての情報発信の拡充

- ・生涯学習センター年史業務で作成した記録フォーマットを元に実施講座の記録を行った。学内記録だけでなく、新たに講座を受けていただく講師への資料とする為にも継続。
- ・SNS広告・HPリニューアルは、センター内、他部署との相談を引続き行い検討し継続課題としたい。

③教員にとって研究・教育の一助となる機会や検討の場の設置

- ・新規講座企画では、研究室・事務部署と連携した講座を企画。在学生を巻き込み、学生還元できるような講座を計画した。
- ・教員が研究している分野の書籍を図書館の企画コーナーと連動させ、在学生が講座を聴講できなくても関連書籍を一定期間閲覧できる企画を計画している。
- ・学生への周知の為、研究室・事務部署と連携した。在学生へは学内掲示を行い、新入生向けには配布資料に案内を入れ、オリエンテーションにて講座案内を実施。
- ・新しいプロデューサーを迎え、中学生講座企画を行い、2024年度6月に実施を予定。

④安定したセンター運営体制の継続、および社会状況に即した機動性のある運営システムの構築

- ・職員の経験値の高さにより、会場当日の機材トラブル回避はしているが、突発的な機材不備が現状の課題。
また、貸出の大型会場が2025年度改修工事の為、代替会場の選定が必要となった。2024年度へ継続する懸案事項。
- ・社会状況に対応する為に開始したオンライン・オンデマンド講座(講義系)は、5類移行後も人気講座では多くの集客がある。講師(一部、撮影業者有)の人件費が主な為、安定した収入となる講座もあり継続して行く。
宅配講座(子ども実技系)については、受講生が減少。運営体制について検討が必要。

◆総務部

【総務課】

①事務組織の見直しによる体制の確立

本項目について見直しを検討するための「大学戦略会議規程」を制定した。また、次年度より大学戦略室が中心となって対応する体制を構築した。

②危機管理体制の確立

- ・大学戦略会議の1課題として、「防災」グループの立ち上げ
- ・両キャンパスにおいて、各教室等に「地震が起きた際の対応マニュアル」と「避難経路」を掲示
- ・教職員への、「多摩美術大学大規模地震対応マニュアル」の周知
- ・避難訓練については次年度実施することが決定したが、今年度は実施しなかった。

③上野毛キャンパスの再整備

- ・駒沢通り拡幅にかかる「土地売買契約」および「物件移転補償契約」締結
- ・旧本館・講堂取り壊し工事の説明会開催、およびSLACK等による関係部署との情報共有徹底
- ・新棟建設にかかる近隣住居への資料投函・説明会実施

【庶務課】

①施設・設備の改修整備、及び大規模工事に伴う学内情報共有・提供

施設・設計室と連携の上、その都度の優先順位によって施工箇所や対象を変更することも含め、各種更新工事を実施することができた。各修繕についても、優先度や緊急性にもとづいて手配を行い、場合によっては修理しないという判断をすることもあったが、八王子キャンパスの経年劣化は思った以上に加速度的に進んでいたため、修繕関係の予算は軒並み予算超過に至った。「デザイン棟」増築工事や「工芸棟」「リベラルアーツセンター」「絵画棟」外壁大規模修繕などに伴う学内周知の役割を果たした。

②省エネルギーに伴う管理及びLED推進・段階的整備

施設・設計室と連携の上、各LED化工事を計画的に実施した。省エネ及び節電に関しては、学内への呼びかけに留まらず、運転時間を日によって変更するなど、細やかな調整によって、昨年度比でCO²排出量を更に削減することができた。

また初めて、学外業者（東京ガス）との排出権取引を成立させる一方、非化石電源による電気受給契約についても具体的な提案に至るまでの検討を進めることができた。

③共通施設の充実と快適・安全性に配慮した環境整備、及び災害対策の実施・対応

施設・設計室と連携の上、各所の老朽化した屋外ベンチや玄関マットなどの交換を行うことができた。

緑地管理業者提案の比較検討の結果、よりメリットの大きい業者を選定し、数十年ぶりに業者を変更することになった。ナラ・カシ枯れ対策について情報収集しながら、安全面から、造園業者による枯木などの伐採作業を大きく進めた。

年度末には担当理事を中心に、避難経路図の再掲出などの手配を完了させた。

④3年目を迎えた学生寮の管理整備対応

定例会開催自体を見直した一方、寮長と連携しながら、これまでのオリーブ館の施設面の課題解決に向けて具体的な対策を進めた（壁に色が付いてしまう既存ベッドマットの廃棄、株式会

社 TAMABI A&D に協力頂いた不安定なWi-Fi環境の改善など)。

管理会社や寮長に任せられることは任せ、役割分担の明確化をはかったが、情報共有方法などに課題が残った。

建物管理面でも、委託業務仕様書を更にブラッシュアップした。

⑤業務内容の調整と見直し

各業者との業務委託内容について見直しを進め、契約内で、各業者に様々な協力を依頼した。用務員が搬出入作業を行う学内備品やレンタル品の回収時の漏れや所在不明が多発し、確認方法や手順を大幅に見直した。

翌年度からの消耗品予算化を受けて、物品購入票の書式変更などを提案した。

BLUE CUBEへの美術館移転を受けて、必要な法定点検や対象リストアップなどをまとめ上げ、予算化した。

【施設・設計室】

①上野毛キャンパス再整備と八王子キャンパスとの連携

(上野毛)

- ・新棟設計を設計者と協議を重ね、学内外関係者への調整・周知を図り、2024年度着工への目途をつけた。
- ・本館、講堂の解体工事について、学内外関係者と調整し実施完了した。
- ・2号館の耐震補強工事も調整の上、実施完了した。
- ・駒沢通りの拡張工事について、自治体と協議を行い、実施に向けての準備調整を図った。

(八王子)

- ・デザイン棟増築工事を業者と協議の上、2023年6月に着工した。関係者との協議調整を行い、2024年7月竣工の目途をつけた。
- ・BLUE CUBEの運用方針が未確定のため、検討を見送ることとなった。
- ・絵画棟改修については、研究室等関係者と協議を重ね、教室等の改修の目途がついた。

②八王子キャンパスでのインフラ等環境の再点検の実施

- ・雨水排水の公共下水接続について、業者と協議を進めた。実施には至らなかったが、計画の見直しを行い、2024年度実施に目途をつけた。
- ・再整備を徐々に進めていたが、測量の計画並びに実施には至らなかった。
- ・井戸揚水ポンプ再整備については、業務見直しに伴い、庶務課へ対応を依頼することとした。

③八王子キャンパスの大規模修繕計画作成と実行

- ・外壁等大規模修繕工事は工芸棟群を予定通り実施完了した。加えて、必要性からリベラルアーツセンターの工事(2023年7月～12月)も実施し完了した。
- ・現況を勘案し計画を一部見直しの上、次年度に修繕を行う建物(絵画棟)を選定したが、骨子の見直しには至らなかった。
- ・次年度実施を行う予定であった絵画棟については、研究室等と協議調整を行い、工期と現況を勘案し、2024年1月から着工することとした(2024年9月竣工予定)。

④共通施設の充実と利用しやすさの推進

- ・八王子キャンパスアメニティの見直し検討を行い、所管の庶務課へのサポートを行った。
- ・アートテークギャラリー(105)については計画を見直しし、スポット照明の入替えを行った。

照明は専門の教員に選定依頼をし、所管の美術館と協議調整と共にサポートを行い、導入を完成させた。

◆人事部

【人事課】

①評価制度の導入

他大学の教員評価制度についてアンケート等を実施、情報を取りまとめ、本学への導入について検討を行った。

②魅力ある職場づくりによる多様な人材の確保

- ・先輩職員参加により新卒者の選考を進め、採用に結び付けることができた。
- ・横断型プロジェクト活動については、総務課に移管し活動を実施した。
- ・研修制度については、アンケート結果を基に課題をまとめ、見直し案としてまとまっている。
- ・障がい者雇用については継続して求人を行っているものの法定雇用率を下回っている。

③定期的な異動、評価制度の見直し、専門職などの人事制度の確立

- ・ジョブローテーションにより活性化した部署がある一方で、経験者が抜けた結果超過勤務が増えるなどマイナスの影響が出ている部署もある。
- ・評価制度については、見直しには至っていない。
- ・高度専門職（一級建築士、臨床心理士）の導入には成果が見られるが、アソシエイト職については効果の検証には至っていない。

【経理課】

①財務報告の信頼性の確保

- ・正確な会計処理を行うことにより、経営判断に資する計算書類を作成することが出来た。
- ・昨年度導入した会計システムは、課員が操作出来るだけでなく、別部署に指導出来るようになり安定した稼働を実現している。

②適格請求書（インボイス制度）の対応

- ・制度開始前に教職員に対して説明会を実施。
- ・インボイス制度の課題の洗い出しを行い、事前準備を適切に行った。
- ・制度開始以降についても、関係部署と協力を行い安定した稼働を実現する事が出来た。

③学納金管理システムの見直し

- ・現行の学納金の業務フローの検証を行い、課題項目を把握。
- ・当該課題を改善する方策を検討し、既存システムの更新を行うことにした。
- ・業者選定までを行い、既存システム更新の道筋を付ける事が出来た。

④財務の継続的な安定と、収入の基盤強化

- ・資産運用収入は2019年度比16.8%増で微増に留まったが、寄付金は、79.1%増と大きく増加し、ホームページへ寄付金システム導入も効果が上がっている。
- ・2024年度に90周年事業に向けた寄付金の募集を開始する事ができるように、寄付金の募集趣意書の作成準備を進める事が出来た。

⑤予算制度のPDCAサイクルの確立

- ・各研究室・部署の管理する予算項目（消耗品）を追加し、適切な予算管理を行う土壌を築く

ことが出来た。

- 予算申請に対して、具体的な根拠を示しながら評価をしているが、制度としてPDCAサイクルの確立には至っていない。

Ⅲ. 令和5年度 予算執行状況および財務状況

当期の予算執行および財務状況について、概要を報告します。

(会計についての詳細はホームページの「多摩美術大学について」→「会計・事業報告」をご参照ください)

1. 資金収支計算

資金収支計算について、その主な内容を報告します。

なお、金額は千円未満を四捨五入して表示しています。

【資金収支計算総括表】

(収入の部)

(単位:千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	7,810,167	7,810,227	△60
手数料収入	262,042	257,807	4,235
寄付金収入	15,196	14,456	740
補助金収入	837,514	831,952	5,562
資産売却収入	2,861,512	2,861,513	△1
付随事業・収益事業収入	238,327	229,672	8,655
受取利息・配当金収入	65,500	82,149	△16,649
雑収入	1,512,733	1,518,124	△5,391
前受金収入	4,043,277	4,085,376	△42,099
その他の収入	1,964,498	1,989,535	△25,037
資金収入調整勘定	△4,755,921	△4,786,330	30,409
当年度資金収入合計(A)	14,854,845	14,894,481	△39,636
前年度繰越支払資金	11,252,404	11,252,404	0
収入の部合計	26,107,249	26,146,885	△39,636

収容定員数を確保しているため、安定的な財政基盤を維持できています。

多摩美サポーター募金による恒常的な募集により、前年度より件数は減少しましたが、寄付金額は増額しました。

私立大学経常費補助金4億6,072万円、うち特別補助2,308万円(大学院等の機能の高度化1,964万円、大学等の国際交流の基盤整備344万円)の交付がありました。前年度に対して一般補助は1,600万円、特別補助も487万円の減額となりました。

美術館土地売却23億340万円、上野毛キャンパス駒沢通り拡幅に伴う土地売却2億5,811万円により前年度に対して大幅な増額となりました。

長期金利は低水準が継続していますが、銀行の定期預金から債券の新規購入による資産運用額を増額し、運用利回りを高めたことにより予算額及び前年度決算額を上回りました。

上野毛キャンパス駒沢通り拡幅に伴う建物移転等補償金13億2,138万円の入金により予算額及び前年度決算額に対して上回りました。

(支出の部)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	4,181,255	4,128,448	52,807
教育研究経費支出	3,242,887	2,980,884	262,003
管理経費支出	1,137,465	926,412	211,053
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	1,785,440	1,627,308	158,132
設備関係支出	445,758	295,748	150,010
資産運用支出	3,544,620	3,539,404	5,216
その他の支出	712,232	712,229	3
予備費	240,517	—	240,517
資金支出調整勘定	△539,811	△1,104,646	564,835
当年度資金支出合計(B)	14,750,363	13,105,787	1,644,576
翌年度繰越支払資金	11,356,886	13,041,098	△1,684,212
支出の部合計	26,107,249	26,146,885	△39,636

退職金支出の減額(前年度に比べて定年退職者の減少)により人件費支出が予算額及び前年度決算額を下回りました。

前年決算額に対して工芸棟群・リハルアーツセンター外壁修繕工事、上野毛新棟建設に伴うインフラ準備工事 などにより修繕費が4億1,936万円、上野毛本館・講堂解体により建物取壊費は1億4,792万円の増額となりました。その他にも業務委託費、旅費交通費、奨学金等も増額しました。一方で、学生管理費、光熱水費、印刷費等は減額しました。

八王子キャンパス・・・八王子キャンパスネットワーク改善工事、画材店ユニットハウスEV増設工事等を実施しました。上野毛キャンパス・・・上野毛2号館耐震補強工事、上野毛新棟建設に伴うインフラ準備工事等を実施しました。前年度決算額に対しては29億5,102万円の減額となりました。

減価償却引当特定資産を10億円増額(合計133億円)しました。第2号、第3号、退職給与基本引当特定資産も増額となりました。有価証券を新規に3億円購入しました。

上記により翌年度繰越支払資金が予算対比では16億8,421万円増額、前年度決算額対比も17億8,869万円の増額となりました。

当年度資金収支差額(A)-(B)	104,482	1,788,694	△1,684,212
------------------	---------	-----------	------------

2. 事業活動収支計算

事業活動収支計算について、その主な内容を報告します。

【事業活動収支計算総括表】

(単位:千円)

	科目	予算	決算	差異
教育活動収支	学生生徒等納付金	7,810,167	7,810,227	△60
	手数料	262,042	257,806	4,236
	寄付金	13,165	12,098	1,067
	経常費等補助金	648,349	643,717	4,632
	付随事業収入	238,327	229,672	8,655
	雑収入	1,512,532	1,517,043	△4,511
	教育活動収入計	10,484,582	10,470,563	14,019
	人件費	4,210,235	4,157,427	52,808
	教育研究経費	4,275,387	3,988,094	287,293
	(うち減価償却額)	1,032,222	1,006,933	25,289
	管理経費	1,386,608	1,174,682	211,926
	(うち減価償却額)	253,000	252,097	903
	徴収不能額	0	0	0
	教育活動支出計	9,872,230	9,320,203	552,027
教育活動収支差額	612,352	1,150,360	△538,008	
教育活動外収支	科目	予算	決算	差異
	受取利息・配当金	65,500	82,149	△16,649
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	65,500	82,149	△16,649
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	65,500	82,149	△16,649
教育活動外収支差額	677,852	1,232,509	△554,657	
特別収支	科目	予算	決算	差異
	資産売却差額	1,641,334	1,641,333	1
	その他の特別収入	192,697	194,851	△2,154
	特別収入計	1,834,031	1,836,184	△2,153
	資産処分差額	503,736	484,339	19,397
	その他の特別支出	3,857	3,857	0
	特別支出計	507,593	488,196	19,397
	特別収支差額	1,326,438	1,347,988	△21,550
予備費	299,648	299,648	0	
基本金組入前当年度収支差額比率(注1)	13.8%	20.8%	—	
基本金組入前当年度収支差額	1,704,642	2,580,497	△875,855	
基本金組入額合計	△1,705,703	△1,577,701	△128,002	
当年度収支差額	△1,061	1,002,796	△1,003,857	
前年度繰越収支差額	△6,702,212	△6,702,212	0	
基本金取崩額	920,000	920,179	△179	
翌年度繰越収支差額	△5,783,273	△4,779,237	△1,004,036	
事業活動収入計	12,384,113	12,388,896	△4,783	
事業活動支出計	10,679,471	9,808,399	871,072	

前年度決算額に対して退職金財団交付金は1億2,971万円減額したが、その他の雑収入が13億1,462万円増額したため、雑収入も11億8,629万円増額となり、予算額も上回りました。

予算額に対しては全て下回りましたが、教員人件費、職員人件費は前年度決算額より増額しました。

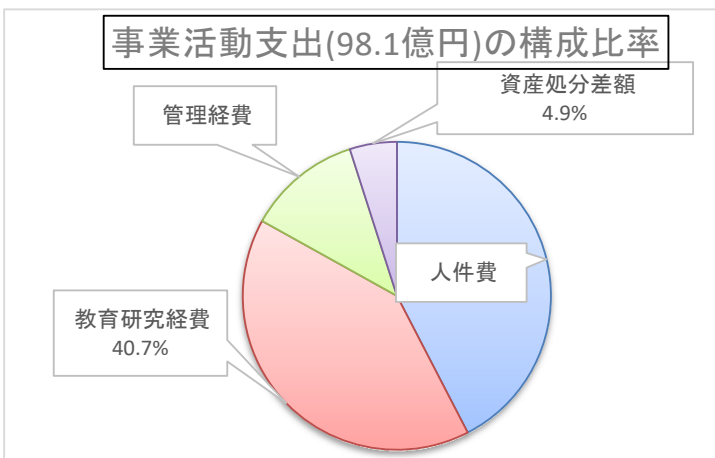
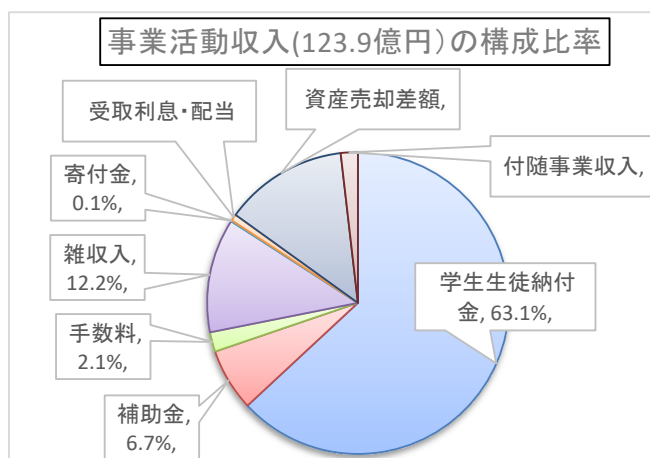
前年度決算額に対して建物取壊費、支払報酬手数料、減価償却額等が増額しましたが、消耗品費、広告費、印刷費等は減額しました。全体額は予算額を下回りました。

私立学校施設整備費補助金1億8,824万円、施設設備寄付金236万円等により前年度決算額及び予算額を上回りました。

建物処分差額4億7,763万円、図書処分差額419万円、構築物処分差額242万円、有価証券処分差額10万円。全体額は前年度決算額を上回りましたが、予算額は下回りました。

上記の結果、事業活動収入は123億8,890万円となり予算を上回りました。また、基本金組入前当年度収支差額比率は前年度より12.6%上がり20.8%になりました。今年度は、美術館土地売却、上野毛キャンパス駒沢通り拡幅に伴う土地売却及び建物移転等補償金による収入が影響しています。今後の継続的な施設設備計画の資金に充当されます。当年度の収支差額は10億280万円となり、翌年度繰越収支差額は△47億7,924万円となりました。この繰越収支差額は、将来計画にかかる基本金の先行組入れや借入金に頼らない施設設備充実の結果生じた基本金組入れによるもので、長期的な改善を計り、今後も事業活動収支の均衡がとれた運営を目指します。

注1 基本金組入前当年度収支差額比率=基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入計×100



3. 貸借対照表

貸借対照表について前年度からの増減と5カ年推移を報告します。
(資産の部) (単位:千円)

科目		R5年度末	R4年度末	増減
資産	固定資産	65,046,110	64,165,262	880,848
	有形固定資産	39,828,859	40,568,934	△740,075
	特定資産	22,596,011	20,991,804	1,604,207
	その他の固定資産	2,621,240	2,604,524	16,716
	流動資産	13,604,488	11,715,709	1,888,779
合計		78,650,598	75,880,971	2,769,627

建物… 上野毛2号館耐震補強工事、上野毛新棟建設に伴うインフラ準備工事、上野毛1号館鉄骨階段設置工事 他。
構築物… 上野毛新棟建設に伴うインフラ準備工事 他。
教育研究用機器備品…CAD室リブレスPC91台、Apple Mac mini 67台、Apple iMac24インチ 40台 他。八王子建設仮勘定…八王子デザイン棟増築工事1式、上野毛新棟建築工事。
その他… 図書、管理用機器備品、美術参考品、美術参考資料、車両の取得。

(負債の部・純資産の部)

科目		R5年度末	R4年度末	増減
負債	固定負債	1,995,800	1,966,821	28,979
	流動負債	5,429,041	5,268,891	160,150
	合計	7,424,841	7,235,712	189,129
純資産	基本金	76,004,993	75,347,471	657,522
	第1号基本金	68,166,191	68,194,901	△28,710
	第2号基本金	6,876,145	6,294,337	581,808
	第3号基本金	379,657	378,233	1,424
	第4号基本金	583,000	480,000	103,000
	繰越収支差額	△4,779,236	△6,702,212	1,922,976
合計		71,225,757	68,645,259	2,580,498
負債および純資産の部合計		78,650,598	75,880,971	2,769,627

「第2号基本金引当特定資産」残高は5億8,181万円増額し68億7,614万円となり、「第3号基本金引当特定資産」は寄付による基本金増額により142万円の増額。「減価償却引当特定資産」残高は10億円増額し133億円。「退職給与引当特定資産」残高は退職給与引当金が2,898万円増額の19億9,580万円。多摩美術大学創立80周年記念奨学金基金引当特定資産残高は奨学金給付による取崩し900万円と利付国庫債券による運用益100万円との差額800万円の減額。保有の有価証券は、引当特定資産分を含め60億3,940万円(2024/3月末現在の取得価額に対する評価はマイナス5,863万円)で前年度比10万円の減額。

現金預金残高は前年比17億8,869万円増額し130億4,110万円、私立大学退職金財団交付金収入等の未収入金が6,950万円増額し4億2,175万円、前払金は4,063万円増額し1億4,152万円。

長期借入金残高は平成30年度から0円となり、退職給与引当金残高は321名分で2,898万円増額の19億9,580万円。

(参考)

減価償却額の累計額	27,527,415	27,879,383	△351,968
基本金未組入額	47,999	291,174	△243,175

第1号基本金:〈取崩〉令和5年度売却資産分の基本金組入額9億2,018万円。〈組入〉令和5年度の組入額(資産取得)19億3,587万円と前年度未組入れ高の組入れ分2億9,117万円の合計から当年度除却資産分の基本金組入額(基本金繰延額控除後)12億7,794万円、未払金による未組入れ分4,800万円、建設仮勘定からの振替額963万円を除いた8億9,147万円を組入れ。

(資産の部)

(単位:千円)

科目		R3年度末	R2年度末	H31年度末
資産	固定資産	59,497,452	57,888,187	57,021,808
	有形固定資産	36,737,289	37,625,443	35,794,484
	特定資産	20,265,217	17,766,146	18,750,763
	その他の固定資産	2,494,946	2,496,598	2,476,561
	流動資産	14,729,122	14,531,515	15,474,734
合計		74,226,574	72,419,702	72,496,542

(負債の部・純資産の部)

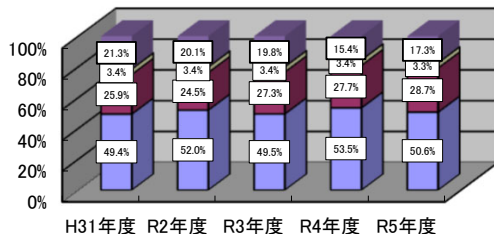
科目		R3年度末	R2年度末	H31年度末
負債	固定負債	2,008,180	2,001,862	1,978,841
	流動負債	4,346,585	3,680,685	4,577,271
	計	6,354,765	5,682,547	6,556,112
純資産	基本金	71,041,598	69,324,331	68,550,000
	第1号基本金	63,665,122	63,448,900	60,675,362
	第2号基本金	6,519,625	5,019,625	7,019,625
	第3号基本金	376,851	375,806	375,013
	第4号基本金	480,000	480,000	480,000
	繰越収支差額	△3,169,789	△2,587,176	△2,609,570
合計		67,871,809	66,737,155	65,940,430
負債および純資産の部合計		74,226,574	72,419,702	72,496,542

(参考)

減価償却額の累計額	26,908,621	25,867,040	24,958,867
基本金未組入額	30,844	103,778	135,690

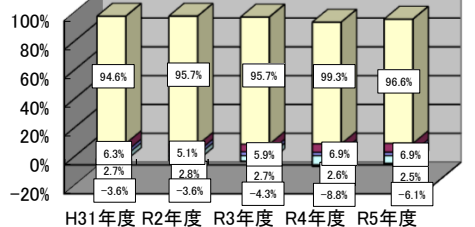
資産構成比率

■ 有形固定資産 ■ 特定資産
□ その他の固定資産 ■ 流動資産



負債、純資産構成比率

■ 固定負債 ■ 流動負債
■ 基本金組入額 ■ 繰越収支差額



4. 財務比率<平成31年度から令和5年度>

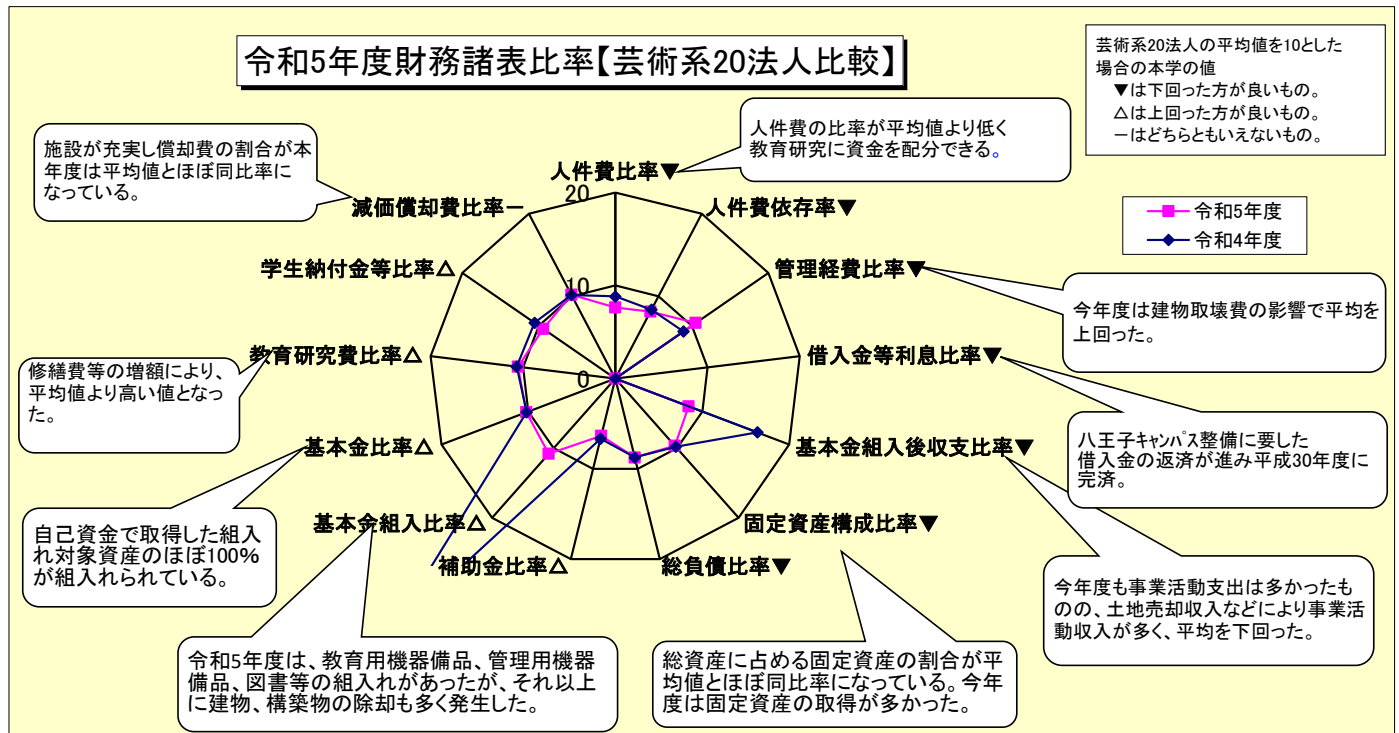
※芸術系(20法人)平均値は、日本私立学校振興・共済事業団編【今日の私学財政】令和4年度版より算出しました。

項目	算式	評価	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	45.0%	43.6%	44.4%	45.6%	39.4%	51.6%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生納付金}}$	▼	50.8%	50.5%	52.4%	54.7%	53.2%	65.6%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	6.2%	4.4%	7.6%	9.5%	11.1%	10.6%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	▼	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
基本金組入後収支差額比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	▼	107.3%	99.7%	107.7%	169.4%	90.7%	107.5%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	78.7%	79.9%	80.2%	84.6%	82.7%	85.4%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	9.0%	7.8%	8.6%	9.5%	9.4%	10.8%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	5.7%	6.7%	7.5%	6.9%	6.7%	10.6%
基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	18.6%	8.6%	18.5%	45.8%	12.7%	11.8%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	99.8%	99.8%	100.0%	99.6%	99.9%	97.6%
教育研究費経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	35.8%	43.2%	36.1%	37.0%	37.8%	35.9%
学生納付金等比率	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{経常収入}}$	△	88.5%	86.4%	84.7%	83.3%	74.0%	78.7%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	-	16.7%	14.4%	16.3%	14.2%	13.5%	13.3%

*「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計 「経常支出」=教育活動支出計+教育活動外支出計 「運用資産」=現金預金+特定資産+有価証券

【比率分析の見方】

- 人件費比率=経常収入に対する人件費割合を示す重要な比率で低い方が望ましい。
- 人件費依存率=学生納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。
- 管理経費比率=経常収入に対する管理費用の割合で低い方が良い。本学では特に節減に力を入れている。
- 借入金等利息比率=低い方が良い。本学は八王子キャンパス整備の借入金により比率が高かったが返済が進み平均値を下回った。
- 事業活動支出比率=人件費や管理経費、教育研究経費などで消費された比率で低いほど安定し自己資金は充実する。
- 基本金組入後収支差額比率=「事業活動収入-基本金組入額」に対する事業活動支出の割合で低い方が良い。100%を超えると支出超過。
- 固定資産構成比率=総資産に占める固定資産の割合で低い方が良い。比率が特に高い場合は流動性に欠ける評価。
- 総負債比率=低い方が良い。総資産に対する他人資金の割合、50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。
- 補助金比率=私立大学等経常費補助金の配分方法見直し、研究設備整備費等補助金などの積極的な取り組みにより増加。
- 基本金組入比率=資産の充実のために安定的に高いことが望ましい。大規模な施設等の取得等を行った場合は、この比率が上昇する。
- 基本金比率=基本金組入対象(教育研究用)資産の自己資金取得による割合で高い方が良い。
- 教育研究費経費比率=経常収入に対する教育研究活動費用の割合で高い方が良い。
- 学生納付金等比率=経常収入の中で最もウェイトが高く安定推移が良い。学費のみに依存しない体制作りが重要。
- 減価償却額比率=将来、資産の更新時に必要である。実質的には消費されずに留保される資金。



【まとめ】

令和5年度決算は、物価上昇、円安による急激なインフレの中で、特殊要因により事業活動収入が大幅な増加となり、学生納付金収入もほぼ予算通りとなりました。基本金組入前当年度収支差額も25億円以上となりましたが、持続的なものではなく、今後は減価償却額の増加を要因とする収支状況の悪化が見込まれるため、学生数確保と経費の見直しによる削減を確実に進めていく必要があります。また、要積立額に対する金融資産充足率は103.69%となっており、財務上は安定した大学運営と施設設備計画の実行が可能な状態です。

財 産 目 録

令和6年 3月31日

I 資産総額		78,650,598,289 円
内 基本財産		39,869,169,059 円
運用財産		38,781,429,230 円
II 負債総額		7,424,841,780 円
III 正味財産		71,225,756,509 円

科 目	金 額	
資 産		
一 基本財産	(39,869,169,059 円)	
1 土地 (団地)	206,332.66 m ²	15,904,545,048 円
内		
(1) 上野毛キャンパス校地	15,845.86 m ²	10,420,600 円
(2) 八王子校キャンパス校地	152,900.38 m ²	11,850,984,307 円
(3) 学生寮敷地	11,640.35 m ²	1,407,402,657 円
(4) Blue Cube (仮称) 敷地	9,260.47 m ²	2,549,245,484 円
(5) 山中純林苑敷地	11,929.00 m ²	80,620,000 円
(6) 奈良飛鳥寮敷地	1,469.60 m ²	5,172,000 円
(7) 野尻湖敷地	3,287.00 m ²	700,000 円
2 建 物	117,489.69 m ²	17,134,192,065 円
内		
(1) 校 舎	97,490.32 m ²	7,501,776,784 円
(2) 図 書 館	6,738.99 m ²	43,661,378 円
(3) 講堂・体育館	2,538.63 m ²	7,044,279,802 円
(4) 学生会館	2,799.28 m ²	420,278,178 円
(5) 寄 宿 舎	6,147.73 m ²	1,174,578,723 円
(6) そ の 他	1,774.74 m ²	949,617,200 円
3 構 築 物	371 件	1,732,108,444 円
4 教育研究用機器備品	11,647 点	1,020,395,247 円
5 管理用機器備品	627 点	177,434,002 円
6 図 書	239,887 冊	1,574,178,470 円
7 美術参考品	8,716 点	1,387,564,511 円
8 美術参考資料	392 種	75,469,573 円
9 車 両	9 台	3,442,742 円
10 建設仮勘定	4 件	819,528,600 円
11 ソフトウェア	18 件	38,037,135 円
12 電話加入権	38 台	2,273,222 円

※土地および建物の面積は、登記上の数値による。

科 目		金 額
二 運 用 財 産		(38,781,429,230 円)
1 現 金 預 金		13,041,098,476 円
2 第2号基本金引当特定資産		6,876,144,779 円
3 第3号基本金引当特定資産		379,657,339 円
4 減価償却引当特定資産		13,300,000,000 円
5 退職給与引当特定資産		1,995,800,630 円
6 多摩美術大学創立80周年記念奨学基金 引当特定資産		44,408,166 円
7 有 価 証 券		2,564,990,834 円
内	(1)利付国債	354,990,834 円
	(2)銀行債	1,100,000,000 円
	(3)事業債	1,110,000,000 円
8 差 入 保 証 金		15,939,030 円
9 未 収 入 金		421,745,720 円
10 前 払 金		141,520,794 円
11 立 替 金		123,462 円
資 産 総 額		78,650,598,289 円
負 債		
一 固 定 負 債		(1,995,800,630 円)
1 退職給与引当金		1,995,800,630 円
二 流 動 負 債		(5,429,041,150 円)
1 未 払 金		1,003,757,904 円
2 前 受 金		4,085,376,160 円
3 預 り 金		339,907,086 円
負 債 総 額		7,424,841,780 円
正味財産(資産総額－負債総額)		71,225,756,509 円